

平成25年第2回教育委員会臨時会日程

日 時 平成25年3月21日(木)

午後4時00分

場 所 北栄町役場大栄庁舎第4会議室

1 開 会

2 会議録署名委員の指名

3 議 案

議案第19号 教育委員会事務局職員の人事(出向)について

議案第20号 教育委員会事務局職員の任命について

4 報告事項

・平成24年度第2回「子どもの豊かな育ちと学びを支援する連絡会」
について

~~・平成25年度「まなびの教室」「ことばの教室」の設置について~~

5 その他

・次回教育委員会 定例会 3月26日(火)午後1時30分から

6 閉 会

議案第19号

教育委員会事務局職員の人事（出向）について

教育委員会事務局職員の人事（出向）をしたいので、北栄町教育長に対する事務委任規則第2条により委員会の同意を求める。

平成25年3月21日 提出

北栄町教育委員会教育長 岩垣 博士

記

別紙のとおり

議案第20号

教育委員会事務局職員の任命について

教育委員会事務局職員の任命をしたいので、北栄町教育長に対する事務委任規則第2条により委員会の同意を求める。

平成25年3月21日 提出

北栄町教育委員会教育長 岩垣 博士

記

別紙のとおり

北 栄 町 職 員 異 動 表 町 長 部 局 以 外

発 令 平 成 25 年 4 月 1 日

教 育 委 員 会 か ら 町 長 部 局

所 属 課	係	職 名	氏 名	旧		
				所 属 課	係	職 名
総務課	総務室	副主幹(昇任)	藤友理佳子	教育総務課	子育て支援室	主任

教 育 委 員 会 か ら 議 会 事 務 局

所 属 課	係	職 名	氏 名	旧		
				所 属 課	係	職 名
議会事務局		局長	田中英伸	教育総務課		課長

所属課	係	職名	氏名	旧		
				所属課	係	職名
教育総務課		課長	西村文伸	生涯学習課		課長
	学校教育室	主幹(昇任)	岡崎しづみ	生涯学習課	人権教育推進室	副主幹
	子育て支援室	副主幹(昇任)	徳永香織	総務課	総務室	主任
	子育て支援室	主事	竹歳美穂子	出納室	会計係	主事
	子育て支援室	主任(昇任)	新名裕子	教育総務課	子育て支援室	主事
生涯学習課		課長(昇任)兼館長	杉本裕史	総務課	財務室	室長
	文化・スポーツ推進室	室長(昇任)	磯江恵子	中央公民館	公民館係	係長
	人権教育推進室	副主幹	遠藤一志	地域整備課	上下水道室	副主幹
中央公民館		主幹	尾川里美	教育総務課	学校教育室	課長補佐
北条こども園	幼稚部	教諭	村上由紀子	北条こども園	子育て支援センター	指導員
		教諭	西川里美	北条こども園	保育部	保育士
	保育部	保育士	高見舞	北条こども園	幼稚部	教諭
		保育士	三谷沙織	新規採用		
	子育て支援センター	指導員	宮本裕子	大誠こども園	保育部	主任保育士
大誠こども園	幼稚部	主任教諭	天野佳代子	由良こども園	保育部	主任保育士
		教諭	針本多恵	大誠こども園	保育部	保育士
		教諭	今中佳代	大誠こども園	保育部	保育士
	保育部	保育士	中西春奈	大誠こども園	幼稚部	教諭
		保育士	上郡山あい	北条こども園	幼稚部	教諭
由良こども園		園長(昇任)	大黒恭子	由良こども園	幼稚部	部長
	幼稚部	部長	小野塚奈津子	由良こども園	保育部	部長
	保育部	部長	飛川みゆき	社会福祉協議会から復帰		
		主任保育士	黒住里美	大誠こども園	幼稚部	主任教諭
		保育士	中村優和	新規採用		
	一時・支援センター	指導員	栗原圭子	由良こども園	保育部	主幹保育士
		主任	篠原良恵	教育総務課	学校教育室	主任

平成 24 年度 第 2 回「子どもの豊かな育ちと学びを支援する連絡会」報告

- 1 日時 平成 25 年 3 月 4 日 (月) 15:30~16:50
- 2 出席者 委員：茂藤由美子 (健康推進課) 但馬 崇 (福祉課)
助谷園長 (大誠こども園) 森田園長 (北条こども園)
井上園長 (由良こども園) 遠藤所長 (大谷保育所)
福井校長 (大栄小学校、会長) 磯江校長 (北条中学校)
藤木教諭 (北条小学校) 西田教諭 (大栄中学校)
事務局：大庭室長、桑本指導主事、新名主事、岩田 (教育総務課)

3 報告・協議

(1) 今年度の就学に向けての取り組みの報告

①「第 1 回子どもの豊かな育ちと学びを支援する連絡会」の該当児童・生徒の就学先の報告

<新学齢児 (来年度小学校新 1 年生) >

知的障がい特別支援学級… 3 名 (大栄小 1、北条小 1…認定就学、奈良県の小学校 1)

自閉症・情緒障がい特別支援学級… 7 名 (北条小 1、大栄小 6)

病弱特別支援学級 (新設)… 1 名 (大栄小)

通常学級… 2 名 (北条小、大栄小)

<小学校対象児童>

知的障がい特別支援学級… 4 名 (来年度大栄中入学 2、来年度北条中入学 2)

自閉症・情緒障がい特別支援学級… 2 名 (来年度大栄中入学)

県立倉吉養護学校中学部へ就学… 1 名

② 本年度の就学指導から

(ア) 比較的スムーズに進んだ事例から、保護者や本人が適正な就学先について考え、決定するために大切だと考えられること

○児童デイサービスを利用していると、特別支援学級を自分の子どもが伸びる場所だととらえることが多い。

○園や学校の取り組み

・保護者が本人の特性を理解できるように支援する。

・医療機関に同行し、医師の話と子どもの生活とをつないでわかりやすく説明する。

・発達検査の結果と普段の生活の様子をつなぎ、保護者が本人の特性を理解できるようにする。

・時間をかけ、何度も保護者との話し合いを重ねる。保護者の思い・願いを受け止め、不安を解消する。

・子どもの特性や困り感と現在行っている支援をセットで伝える。

○小・中学校・特別支援学校との連携

・学校見学と学校の先生との話し合いを持つ。体験学習を行う。

○小学校高学年、中学校では、本人が少人数学習の良さを実感する。

○両親 (家族) そろって本人の特性を理解し、就学について考える。

(イ) 困難であった事例から、問題と考えられる要素

○両親とも我が子に対して育てにくさを感じているが、父親と母親の間で、その捉え方

に隔たりがあり、育児の中心になっている母親が一人で悩んでいるという状況になりがちである。

○家族が特別支援学級に対してあまりよいイメージを持っておらず、周囲の目を気にしている。

○保護者と本人のことについて話し合いができない。

(保護者自身にも抱えている問題がある場合)

○障がい者の特性についての理解が得られない。

○障がい名がつくことは、「決めつけになる」と診断や受診を拒む。

○本人の力を伸ばすことより、「地域の中で」、「みんなと一緒に」を一番大切に考えている。

○園内支援体制と、保育者の特別支援教育に対する資質向上が課題。

○保護者が、小学校においても園や所と同じように1対1の対応を望まれる。

(システムの違いが理解できない)

③ 特別支援学級に在籍する中学校3年生の進路予定について

H24年度 特別支援学級に在籍する中学3年生の進路予定

	学級	進学予定先
		E)

<今後町として支援できること>

○中学校は、保護者の了解を得て、進学先との引継ぎを行う。

○義務教育終了後は、福祉課が相談にのることができる。中学校が必要と判断した生徒については、早い段階から福祉課担当者が支援会議に参加し、家族との信頼関係を築くようにする。

○特別支援学校に就学した生徒については、教育委員会が学校での様子の情報提供を依頼し、就学後の様子を見届ける。

(2) 本年度特別支援学級に入級または措置換えをした児童・生徒の状況等 (各校より報告)

特別支援学級での次のような指導をすることにより、本人に「できた」「やればできる」という自信が付き、自己肯定感が高まった。また、学習に集中して取り組めるようになるとともに、友達との関係も良くなった。

○スモールステップで、繰り返し練習等を行う。

○本人に合った学び方やわかりやすい環境づくりをする。

○自立活動の時間に本人の生活上の困り感に対する指導をする。また、すべての時間に自立活動で学習したことを活かしていく。

- 得意を活かす。
- 役割を持たせる。

(3) 本年度県立倉吉養護学校へ就学した児童・生徒の状況等（教育委員会より報告）

- 高等部の二人は、カリキュラムが本人に合っている。体験的な学習や作業などを通して、「できた」「やればできる」という積み上げができる。このことが自己肯定感をあげ、次への意欲になっていると思われる。対等に活動できる友達の存在も大きい。
- 小学部の二人は、本人の気持ちやペースを大事にし、納得して進めること、本人がわかって動ける環境設定、体験学習等により、本人の持っている力が発揮され伸びてきている。
- 保護者は、本人が伸びる環境の大切さや自立に向けての取り組みの大切さを感じているようだ。
- 保護者のおしゃべり会に参加され、とてもよい表情でいろいろな保護者の話を聞かれた。保護者同士のつながりもよいのではないかと。

(4) 5歳児健診の報告

- ① 健診の進め方について …事前事後の保育所・こども園、教育総務課との連携
- ② 配慮を要する来年度の年長児について
～5歳児健診結果から～

	精密検査	追跡観察	観察中	備考
北条こども園	2	8	4	
北条みどり保育園	0	4	1	
大誠こども園	0	6	2	
由良こども園	0	7	1	
大谷保育所	0	1	0	
広域	1	3	0	
計	3	29	8	

精密検査…問題があつて直ちにあるいは近い将来、精検を要するもの。

(具体的には医療機関での詳しい診察や検査が必要であるもの)

発達クリニック等で、再度詳しく診察する必要があるもの)

追跡観察…問題を特定するためや問題の解消のために一定期間の経過観察を要するもの

(具体的には、事後相談・事後健診や保健師・保育士等による経過をみていくもので、

医療機関での詳しい診察や検査までは不要と思われるもの)

観察中…すでに問題が指摘されていて、現在医師・保健師・保育士などが経過観察を行っているもの

～「鳥取県乳幼児健康診査マニュアル」より～

*健診結果をその後の保育での支援に活かし子どもを伸ばすこと、所・園での育ちや支援を学校につなぐことを大切にしている。(担当課、所・園、教育委員会の連携)

(4) 言語障がい通級指導教室の通級状況について

通級児童数 26名

(大栄小学校 19名、北条小学校 2名、琴浦町の4小学校から 4名、湯梨浜町 1名)

(構音指導…7名、吃音…4名、その他(コミュニケーション指導等)…15名)

(5) その他

○「年長児就学指導の流れ」

○配慮が必要な児童・生徒の引継ぎシート(こども園から小学校用、小学校から中学校用)

4 意見等

- 小学校での特別支援学級入級を考えた年長児の中には、小学校の早い段階できめ細やかな支援を受けて社会性を身に付け、中学年か高学年で通常学級への措置換えを考えているケースがある。
- 小学校から中学校への移行支援会議の時に義務教育終了後の進路についても話し合われるとよい。
- 適正な就学先として特別支援学校を考えている場合は、特に早い段階から保護者への情報提供をすることが大切。(年中児の時に学校見学をし、年長で小学校と特別支援学校の体験入学をする)
- 3歳児健診の事後、健康推進課がこども園等に確実に情報提供をするシステムを作った。今後は、保育における支援の充実と育ちをつなぐシステムづくり(早期に個別の支援計画を策定する)が必要。
- 5歳児健診は、現在1月末までかかっているが、秋ごろまでに実施してほしい。
- 保育の現場の課題として、行動面に課題がある子の困り感には気づきやすいが、認知面の困り感は見逃してしまいがちである。子どもの実態をしっかりとつかみ、必要な支援をしていきたい。
- 適正な就学について家族間で考えが違うケースがある。学校見学等に父や祖父母にも参加してもらおうようにする。
- 発達検査を踏まえた専門家(LD等専門員)の説明が、子どもの特性理解に大変有効だった。
- 生まれた時超未熟児だった子どもの情報が、入園するまでこども園に伝わってこなかった。今後、未就園児で特に配慮を要する子どもの実態把握、育ちを保障する取り組みが課題である。
- 1歳6か月健診、3歳児健診の結果医療につないだ子どもを伸ばすための療育や保育が充実するように関係機関の連携が必要である。